

さいたま市立大原中学校 学校だより



# 新しき光



さいたま市立大原中学校

TEL 048-831-5397 FAX 048-835-1357

WEB <https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/>

第11号

校訓「歴史を拓く」 学校教育目標「はつらつとした生徒、地域に輝く学校」

令和8年2月27日発行

## 永遠の「〇分の3」

校長 越智 宏明

令和7年度もついに最終月となりました。3年生は、通いなれた学び舎から、それぞれの新たなステージへと、大きく羽ばたこうとしています。

3年生の生徒たちにとって、中学校生活はどのようなものだったのだろうか？この時期になると、私は必ず同じことを考えます。教師として生徒たちに、未来を自ら切り拓いていく力を身に付けさせることが果たしてできたのだろうか、と。

中学校生活の3年間は、一般的に「思春期」と呼ばれ、人生の中でも最も多感な時期と言われます。この時期に考え、経験したことが、その後の人生に大きな影響を与えることは、間違えのない事実です。

こうした大切な時期を経て、その後の人生を前向きに突き進んでいく原動力となるのは、「成功体験」ではないかと、私は思っています。考えたことを実行し、その時は例え上手くいかなかったとしても、試行錯誤の末に手にした「成功」という果実は、とことん甘い記憶となって、更にその次を求めていくのではないのでしょうか？

実際、3月に卒業する3年生たちは、「未来創造プロジェクト」に立ち上げから関わり、新制服の決定や校則の変更、忘れな草プロジェクトへの参加やテレビ番組「けるとめる」への出演など数多くの「果実」を手にすることができました。「願えば夢はかなう」ではなく、「行動することで夢をかなえる」を実践してきた生徒たちです。

忘れられない映画のワンシーンがあります。

1989年公開のアメリカ映画「フィールド・オブ・ドリームス」。

アイオワ州でトウモロコシ畑を営む農夫のレイは、ある日突然、謎の声を聞きます。「それを造れば、彼がやってくる」。そして彼は自分のトウモロコシ畑に野球場の幻を見るのです。謎の声に導かれるようにレイは、周囲の反対も聞かず、トウモロコシ畑を潰し、そこに野球場を建設します。そしてある夜、レイは彼の野球場に人影を見付けるのです。そこにやってきたのは、かつて野球賭博の濡れ衣をかぶされ、球界を永久追放、失意のうちにこの世を去ったメジャーリーガー、ジョー・ジャクソンの亡霊でした。ジョーは、彼と同じように球界を追放になった仲間の亡霊を呼び寄せ、レイの野球場でプレーを楽しむようになりますが、その姿は、レイとその家族にしか見えません。レイの野球場には、次々とこの世に未練を残したまま世を去った野球選手たちの亡霊が現れます。そして、最後に野球場に現れたのは、かつてマイナーリーグでプレーしたものの一度もメジャーリーグに昇格することが出来ず、レイと不仲なままこの世を去った彼の父親ジョンの若かりし頃の姿でした。

忘れられないワンシーンとは、映画のラストでレイが若き日の父親と夕陽の中でキャッチボールをする場面です。「ここは天国かい？」ジョンがレイに向かってボールを放ります。「いや、アイオワさ」レイが投げ返します。「天国を信じるかい？」ジョンが重ねて尋ねます。「ああ、夢のかなう場所のことさ」と答えるレイ。ジョンは、レイからボールを受け取ると、そのまま空を見上げます。「じゃあ、やっぱりここは天国なんだろうな…」。

大原中学校が、生徒の皆さんにとって「天国」になれたのかどうか、それは分かりません。我々教職員にも力及ばない部分もあっただろうし、納得できない思いを抱えたまま、この場所を巣立つ生徒もいるでしょう。しかし、皆さんがこの3年間に大原中学校で学んだり経験したことに無駄なことは一つもありません。多感なこの時期に何を感じ何に笑い、何に怒ったのか、それを次のステージで活かしてください。

生徒の皆さんにとっての中学校生活は、わずか「15分の3」に過ぎません。しかもこの数字は、来年には「16分の3」、「17分の3」、「50分の3」、「80分の3」と、その割合は、年が経つごとにどんどん小さくなっていくことでしよう。しかし、「中学校生活のあれがあったから…」と思い出せる、永遠に光り輝く「〇分の3」であってくれたら嬉しく思います。

保護者、地域の皆様には、今年度も様々な場面で大変お世話になりました。4月から、は本校の制服もリニューアルされ、新しい歴史が刻まれます。引き続き地域の「一因」となる学校運営を目指して参りますので、今後とも温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



体育の授業中、笑顔でポーズをとる3年生の生徒たち。この笑顔が新しいステージでも輝き続けるよう願っています！